

みなさん、ぜひぜひ！ご覧ください♪



カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年04月15日

自然を身近に感じていただけるよう取り組んでいきます！



カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年04月23日

余り布でハンチング帽子を作ろう！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月13日

日 時：5月19日（金）午後2時～4時

5月26日（金）午後2時～4時

場 所：環境情報活動センター（品川区役所第2庁舎3F）

材料費：1,000円

保険料：100円

♪♪♪

5月19・26日（金）環境情報活動センターで「余り布でハンチング帽子を作ろう」が開催されました。

講師を担当してくださったのは花井はな子先生。日頃からご自分で服を作られ、ファッションショーもされているということで、お裁縫の腕前、センスのよさに脱帽でした！

参加者のみなさんは、先生からコツを教わりながら、真剣に1枚の余り布からお洒落な帽子を完成させました。



使用する布は□50cm×50cmの大きさがとればどんな布でもよく、はかなくなったスカート、大き目のハンカチ、余分に買ってしまい使っていない布、そんなタンスの奥に眠ったままの布をリメイク♪季節によってキルティング地を使うなどすれば、1年中かぶることが出来る万能帽子となります！

花井先生、補助をしてくださいましたみなさま、参加者のみなさま、お疲れ様でした。そして、ケーブルテレビ「しながわホットほっと」さんの取材をこころよく受け入れていただきありがとうございました。

放送予定は6月10日～6月16日。5チャンネルで20分間、1日6回放送となります。

（時間7：00、10：00、13：00、16：00、19：00、22：00）

みなさん、ぜひぜひ！ご覧ください♪



また、品川区ホームページでも紹介されましたので、こちらもぜひご覧ください

♪

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/cgi-bin/event.cgi?>

[action=disp&target=1148628863](http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/cgi-bin/event.cgi?action=disp&target=1148628863)

カテゴリ：平成18年度

投稿日 : 2006年06月13日

竹の大根てっぽうを作ろう♪

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月13日

日時：6月4日（日）午前10時～午後3時

場所：環境情報活動センター（品川区役所第2庁舎3F）

材料費：なし

保険料：なし

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

2006年6月4日(日)エコフェスタ開催日、環境情報活動センターで、環境講座「竹の大根てっぽう」が開講されました！

大根てっぽうというのは、竹の筒とゴムで、角切りにした大根を飛ばす「昔なつかしのおもちゃ」です。ドリルやキリで穴を開ける作業は、ちょっと力があるのでみんな真剣！

作った後は実際に的に当てて遊びました♪簡単なようでなかなか難しく、コツが要るようで、大人も子どもも夢中になっていました！

用意した100コ分の材料もみごとに無くなり、大繁盛のうち、講座は終了となりました。

亀田先生、ボランティアのみなさん、本当にお疲れさまでした！

大根てっぽうは、大根以外にもニンジンなども飛ばすことができますので、料理に使うときに切って捨ててしまう部分を利用して、遊んでくださいね！



カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月13日

植物の葉っぱの色探しとロケットラワンづくり

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月29日

平成18年6月17日、林試の森公園にて「植物の葉っぱの色探しとロケットラワンづくり」講座が行われました。

昨日までの大雨もすっかり上がり、林試の森に小学生の親子がぞくぞくと集まってきました。講師は環境カウンセラーの亀山勇二先生。どんぐりおじさんとして、もうすっかりおなじみですね。

まずは材木を利用したネームプレートに名前を書き込み、それぞれ押し葉を貼ったり、シールを貼ったりしてアレンジ。それから自己紹介です。



この時点では緊張で顔がこわばっていた子ども達も、次の「葉っぱ探し」のコーナーでは公園内にある指定された葉っぱを一番先に見つけ出そうと、笑顔で走り出していました。ハンカチノキ、ミズキ、フエなど8種類の葉っぱを公園内で探し出し、ひとつひとつの植物に、亀田先生からお話がありました。

その後はそれぞれの葉っぱが色見本帳のどの色に一番近いか、みんなで一枚一枚照らし合わせ、発表します。色見本帳には130近くの色が登録されていますが、面白いことに受講生のみなさんが答える色番はそれぞれ違いました。遠くから見ると葉っぱの色はほとんど一緒のように見えますが、同じ緑でもいろいろな色の色素が加わって、人工的には作れない、神がかりとでも言うべき色の組み合わせで作られているのですね。また、一本の木でも、日照の違いや、気象条件などによって、複雑に色合いは変わってきます。みなさん、悩みながらも、この色探しを味わい、楽しまれた様子でした。



しばし休憩の後、今度はロケットラワン作りに挑戦です。種の模型をつくり、輪ゴムで飛ばすと、大空からくるくる回転しながら舞い降りてきます。子どもはもちろん、大人も大興奮！歓声の中、しばらく飛ばし合いが続きました。

この様子は、しながわケーブルテレビさんの番組「しながわほっとほっと」にてご覧いただけます。（放送日は7月1日から7月7日まで。5チャンネルで7：00、10：00、13：00、16：00、19：00、22：00から）

今後も環境情報センターを抜け出し、自然の中での環境学習講座を開催していきます。どうぞご期待ください。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月29日

山の草を寄せ植えしてみよう！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月12日

日 時：6月28日（水）午前10時～正午

場 所：環境情報活動センター

（品川区役所第2庁舎3F）

材料費：500円

保険料：30円

♪♪♪

6月28日水曜日、環境情報活動センターにて環境講座「山の草を寄せ植えしてみよう！」が開催されました。講師は、環境講座「苔玉を作ろう！」「小菊のミニ盆栽」をご担当くださいました、園芸研究家の伊藤金美先生。

先生より、今回寄せ植えをする「フーチ草」と「野紺菊」についてのお話、寄せ植えのコツ、手順などの説明があった後、実際に寄せ植え講座の開始となりました。



まず、フーチ草と野紺菊をどのように鉢におさめるか完成をイメージし、形が決まったら麻ひもでクルクルと固定します。そして赤玉土をかるく敷いた鉢の上に苗を置き、鉢と苗を針金で固定します。その上から赤玉土をもり、乾燥を防ぐための水苔を覆い、完成となります。



47名の応募者の中から選ばれた、20名の参加者のみなさんは、真剣に土、緑と格闘され、すばらしい作品を完成させました。

みなさんの作品集、講座の手順など、環境情報活動センター内「講座ファイル」におさめてありますので、お近くにお越しのさいは、ぜひセンターへ遊びに来てく

ださい



カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年07月12日

夏休み子ども環境講座「今日は1日環境DAY」

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月15日

●日時：8月4日（金）午前9時～午後4時

●参加費：無料

8月4日（金）、「ガスの科学館：がすてなーに」と「品川清掃工場」に見学に行きました。

とにかくみんな、朝から元気いっぱい！「自由研究にしたい！」という勉強熱心な子供たちがたくさん集まりました。

■「ガスの科学館：がすてなーに」にて



「がすてなーに」では、自分たちが使っている天然ガスが、どこから来て、どのように使われているのか、また、環境にやさしいといわれる天然ガスのさまざまな特徴を、実験や体験を通して学びました。

6月に出来たばかりの施設のため、最新の展示ばかり。実際のガス管を、ヘルメットをかぶって通ってみたり、大きな鍋を二人がかりでアップダウンさせ、目の前の

画面に映し出される野菜炒めが焦げないように、ガスの調節をしながらお料理をしたりと、みんな真剣そのものでした。

また、エナジースタジオでは、天然ガスを液状にする実験を見ました。

天然ガスは外国からどうやって運ばれてくるのか、みなさんご存知でした？

一部の女の子は目の前の実験を見るだけでなく、液体になる温度までもしっかりとメモをとっていました。これで自由研究はばっちりと言った感じでした。

■「品川清掃工場」にて

まずは、自分たちの出したゴミがどのように処理されているのかを、清掃工場の方に教えていただきました。ゴミが処理されていく、たくさんの映像を大きな画面で見て驚き！「これって今？」



こちらも新しい施設だったので、とても清潔で、コンピューター制御で運営されていました。

清掃工場の方には施設を案内していただいたばかりでなく、帰りにお土産として清掃工場の脇で育ったお花をいただきました。みんなが思っている清掃工場のイメージとはちょっと違っていたようです。

見学の後、教室に戻りみんなで自分が感じたこと、学んできたことをしっかりと発表しました。

そして、環境のために今日からできる目標をひとりひとりが決め、解散。ちょっと疲れた感じもありましたが、笑顔で帰っていきました。

●楽しみながらも、分からないことはしっかり質問して解決していくというみんなの姿勢がとても印象的でした。今後も子供たちが体験を通して、環境問題を考えられる講座を考えていきたいと思います。ご期待ください。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月15日

流木アート～甦る流木の仲間たち～

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月15日

●日時 : 8月19日(土) 午前9時30分～正午

●参加費 : 200円(保険料込)

8月19日(土)、環境情報活動センターにて「流木アート～甦る流木の仲間たち」が開催されました。講師は流木アーティストの樋口金太郎先生です。

まずは、先生から、今回の講座で使用する「流木」についての説明がありました。中でも、タイトルに使われている「甦る」という字には「更」に「生」まれるという二文字の意味があり、「自分たちが流木をもう1度生まれ変わらせる！」という思いで取り組んで欲しいというお話は、とても印象に残るものでした。



そして、早速みなさん、流木選びです。

手に取った流木を、さまざまな角度から眺めます。流木があちこちの手の中でぐるぐると回転し。。ひらめいた方から作業開始！

作業開始後、1時間半を過ぎた頃から、徐々に作品としての姿を見せ始めました。最初は、作業に夢中になり「シーン」としていた教室でしたが、次第に「流木のこの穴に花を挿せるかしら?」「このへこみにポストカードは立つかしら?」「何に見える?」「熊かな?鳥かな?」

終了間際には、とても賑やかな教室になりました。

流木の自然に開いた穴や切れ目をうまく利用した作品がたくさんできあがりしました。

自然の形を活かすということで、サンドペーパーでの磨き作業や、グルーガンでの接着という簡単な作業が主だったため、お子さんも自分の作品をしっかりと完成させていました。

みなさんも自然の中のものを甦らせてみてはいかがでしょうか?





カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月15日

8月の水曜は環境クラフトの日♪

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月15日

8月、環境情報活動センターではさまざまな環境講座を開催しました。

夏休みということでたくさんのお家族づれが参加してくれました。

●日時：水曜日 午後1時～午後4時

●参加費：無料

■どんぐりのミニカーと木の実のアクセサリーを作ろう

8月2日、亀田勇二先生が「自然素材を使ったミニカーとアクセサリー」の作り方を教えてくれました。

自然素材に触れることで自然に対して親しみを感じて欲しいと願う亀田先生。

子供たちに、作品の作り方の他、ドリルの使い方なども熱心に指導してくれました。

どんぐりへのドライバーの顔付けからはじまり、タイヤや車のハンドルなど細部に至るまで、

こだわりのあるミニカーでした。難しいところもあったけど、全員が見事に走るミニカーを完成させました。

ミニカー作りの参加者が多い中、女の子たちも、木の断面にビーズや貝殻を貼り、オリジナルのアクセサリーを完成。

自分でこだわって作ったものだけにみんな大切そうに持ち帰っていました。





■廃油を使ってろうそくを作ろう

8月9日、環境推進委員の目野正彦先生が「廃油を使ったろうそく作り」を教えてくださいました。

「使用済みの油」と「いらなくなった紙コップ」を使用するという、とてもエコロジーなろうそくです。

温めた廃油に好きな色のクレヨンで色づけをし、凝固剤を入れてひとまず完成。ここからがもう一つのお楽しみ。今回はそのろうそくの明かりで、スローな時間を楽しんでもらおうと、

灯籠のような薄い紙で囲いを作りました。絵付けは海などの夏らしい絵から、ツリーの絵などさまざま。廃材が素敵な癒し系ろうそくに生まれ変わりました。

お家ででの天ぷらやフライの後の油で簡単に出来ます。みなさんもぜひお試しください。

油の処理が楽しみになりますよ。





■牛乳パックを使って紙すきを試し「オリジナルはがき」を作ろう

8月23日、品川区資源循環推進課のみなさんが、牛乳パックのはがきの作り方を教えてくれました。

はがきとなるベースは、実際に品川区が集めた牛乳パック。皆さんの協力の賜物です。

まず、事前に紙パルプと保護しているフィルムをはがしピンポン玉状にしたものが登場。

（これをつくる作業が大変だそう）

そのボール1つと水500mlをミキサーで混ぜ、はがきの型に流し込みます。

それからいろんな形の折り紙や葉をいれ、水気を切ってアイロンでプレス。

子供たちもすぐに慣れ、デザインに夢中になっていました。

中には「字を書く場所がない・・・。」などの感想もありましたが、

素敵なポストカードがたくさん出来ました。

牛乳パックのリサイクルしたことで、このような楽しい体験ができました。

これからも、リサイクルにご協力お願いします！





■不用品からコラージュミニ絵本を作ろう

8月30日、アートディレクターの竹中信子先生が「コラージュミニ絵本」の作り方を教えてくれました。

先生が用意してくれた絵本の材料は、お菓子の容器包装や雑誌の切り抜き、プチプチや布切れ、というどこかで見たことのあるものばかり。

身の回りのものだけど、センスのいい素材ばかりが集合していたので、

みんな素材選びからとても楽しそうでした。

テーマを決めて絵本作りに入ると、「顔」の本、「季節（春夏秋冬）」の本、「動物」の本など

すばらしいアートの世界が。

不用品から出来ているとは思えない完成度の高い作品ばかりでした。

ぜひ、みなさんも身近な不用品を見直して「アート作品」を作ってみてはいかがでしょうか？





カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年09月15日

キッチンからはじめるエコロジー

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月19日

8月11日金曜日、大井町駅前きゅりあん調理講習室にて、『キッチンからはじめるエコロジー☆冷蔵庫の余りものを使ってドライカレーを作ろう！』講座が開催されました。身近な「食」を通して、楽しみながら環境問題を考えようというこの講座、実は定員の2倍を上回るお申込みをいただいた程の人気でした。



まずは、みんなで「環境」について勉強。夏が旬のトマトを冬に作ると、エネルギーが10倍必要なんだそう。旬のもの食べるのは、体によいだけでなく、環境にも優しいんだね。

また、例えば、マヨネーズ大さじ1杯を捨てた場合、魚の住めるきれいな水に戻すためには、バスタブ13杯のお水が必要なんだそうです。残飯、汚れ物を出さないことが大切なんだね。

ゴミを出さない野菜の切り方、少ない水で食器を洗う方法、一番エコなお湯の沸かし方など、実際に作業を見ながら、エコなポイントを確認します。今回は、にんじんもしょうがも皮ごと使います。

作り方を覚えたらさっそく調理開始！今回は、ドライカレーと、豆腐を使ったおだんご、「エコだんごきょうだい」を作ります。





たまねぎの皮やピーマンの種などの食べられないところは、チラシで作ったゴミ袋に入れます。野菜から出る汁も吸ってくれる便利な袋です。三角コーナーへゴミを溜めておくと、水を流すたびに汚れた水が出ますし、ゴミが水を飲んでしまうのです。

調理が終わった後、この袋に入っているゴミの量を測ります。どの班が一番少なくて作れるかな？

作り終わった班から試食開始！作り始める前はナスやピーマンが嫌いと言っていた子も、残さず食べてしまいました！





おいしく食べたら、最大のエコポイントの後片付けです。水で洗う前に、着られなくなったTシャツなどの布を10センチ角程度に切ったものを利用してお皿を拭きます。これだけで、汚れの8割は落ちてしまいます。洗剤の入れ物のウラには小さく「1Lに対して0.75ml」など使用量を書いてあります。それに従って、ボールや桶いっぱいの水に洗剤を溶かし、その水を使って汚れ物を洗います。その方法を使うと、1班分の食器を、たった2滴の洗剤で全て洗うことができました！



片付け終わったらゴミの計量です。

ゴミが一番少なかった班のゴミの量は、5人前の料理を作って、40gでした！
お家でも是非、ゴミ減量と水の節約に挑戦してみてくださいね！

アンケートの声

- ・環境について学びながら、おいしいものが食べられて良かった。
- ・水の有効利用、洗剤の使い方などが参考になった。
- ・生ゴミをかなり減らせることを実感しました。
- ・子ども達にもわかりやすく、みんな熱心に聞いていて、大変よかった。
- ・家でも是非作ってみます。
- ・環境について、さらに出来ることがあると実感しました。

この他、楽しかった・美味しかったとのご意見をたくさん頂戴いたしました。

今回講師をつとめてくださいました、東京ガス◆南部支店の皆様、エコ・クッキング事務局<http://www.tokyo-gas.co.jp/ecocom/ecocooking/index.html>の皆様、本当にありがとうございました。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月19日

気象予報士と一緒に地球温暖化を考えよう！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月22日

8月26日（土）、環境情報活動センターにて、「気象予報士と一緒に地球温暖化を考えよう！」が開催されました。講師は、気象キャスターの岩谷忠幸先生です。



「将来の夢は何ですか？」この問いかけから岩谷先生のクイズは始まりました。みんなの夢をかなえるためには、災害がなく、平和でなければなりません。

「地球が暖まると、地球上の氷はこんなに解けてしまうんだ！」「このまま地球温暖化が進むと、ツバルという島国は沈んでしまう・・・」

クイズや映像から、次々と明らかになる地球温暖化の問題に、みんなは驚いていました。

「二酸化炭素が増えると気温が高くなるの??」そのことを実証するための実験をみんなでやってみました。空気の入った箱、二酸化炭素が入った箱それぞれに赤外線照射し、一分毎に温度を測定していきます。出た数値を表にし、改めてそのことを実感しました。

その後、「二酸化炭素をへらして、おこづかいをふやそう！クイズ」に挑戦しました。「家族でだんらんして、一緒に部屋にいと、それだけで電気の節約、お金の節約になり、二酸化炭素も減らせる！」「コンセントを抜いたり、テレビを見る時間を決めることも、自分にもできる！」環境のために今日からできる目標を、一人一人見つけることができました。





「アスファルトの温度は何度だろう?」「土の温度は?」 温度をはかりに外へ行ってみました。岩谷先生がみんなに貸してくれたのは、特別な温度計だったため、講座が終わった後に、「欲しい!!」という子もいました。



「温暖化の事は難しくてわからなかった」 講座の前はそう思っていたという子が、帰り際のアンケートでは「二酸化炭素を減らす!!」と力強く目標に書いてくれました。また、アンケートから、参加してくれたすべての子が、感想や環境のために今日からできる目標を一生懸命に書いてくれたこと、それがすごく伝わってきて、環境情報活動センター職員はとても嬉しく感じました。



「自分も環境のためにできることを始めたい!」 そういうきっかけを提供できるよう、今後も環境情報活動センターは取り組んでいきます。



カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年09月22日

ネイチャークラフト第一弾！どんぐりミニ図鑑をつくろう

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月28日

10月14日いいお天気の土曜日に「秋の木の実を使ったネイチャークラフトを作ろう」が環境情報活動センターで行われました。講師はおなじみ亀田勇二先生。今日は「どんぐりのミニ図鑑」をつくろうというテーマです。

「どんぐりという木の実は、じつはないんですよ。」まずは、一口にどんぐりといってもいろいろな種類があることや、その見分け方のお話をききます。先生が拾ってきてくださったどんぐりの山の中から、9種類のどんぐりを探しだします。



アベマキとクヌギの見分け方は？

これはミズナラ？こっちはコナラかな？

それぞれの種類のどんぐりを見つけたら、亀田先生に確認していただきます。

無事OK！をもらえたら、いよいよ図鑑の作成です。

どんぐりとその名前をダンボールの台紙にどう並べるか？

木の枝で飾りを作ったり、ダンボールを細く切ったものを縁取りにしたり、ひとりひとりデザインを考えて、もう夢中です。なかには自分も作ってみるお母さんも。



難しいところはお父さんやお母さんに手伝ってもらいながら、並べ方も飾りのつけかたもみんな違う、自分だけのミニ図鑑が出来ました。



こんどは山の中にこの図鑑を持って行って、どんぐりを探してみてね。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月28日

端切れを使ってタペストリーを作ろう

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月28日

10月28日土曜日、環境学習講座の「端切れを使ってタペストリーを作ろう」が開催されました。

古くなった浴衣や着物などの記事を使ってタペストリーを作ろうというリサイクル講座です。講師は高井徳子先生。

今回は裁縫をするため対象は中学生以上、16名の方が参加されました。



あらかじめ講師の先生から型紙にあわせて布地を裁った作成キットが配布され、完成サンプルや作成途中のお手本を見ながら縫っていきます。



ところどころ迷ったところを講師の先生に教えていただきながら、ひとつひとつ手縫いで作るタペストリー。

最後に星型のビーズや小さな雪だるまなどを飾りにつけて完成です。
赤や緑系の端切れを使えば、クリスマスのタペストリーとしても活躍しそうですね。



タンスの片隅に眠っている、もう小さくなってしまったり着られなくなってしまった思い出の服なども、このようなタペストリーに生まれ変われるといいですね。是非ご自宅でも作ってみてください。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月28日

食器や水盤に草花を植えて室内で楽しもう！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年11月10日

土を使わずに無菌で栽培できるので虫がわくこともなく、植える容器に穴がいらず水漏れもないため、室内でも気軽に楽しめるハイドロカルチャー。10月25日水曜日の午後、このハイドロカルチャーを学ぶ「食器や水盤に草花を植えて室内で楽しもう！」講座が開催され、20名の受講生の方々が参加しました。講師は園芸研究家の伊藤金美先生です。

まずは、ハイドロカルチャーについての講義。植え付け方法や置き場所、水やりから肥料のことまで詳しい説明がありました。「室内で観賞することが多いので、弱い光でも育つ観葉植物を選ぶとよいでしょう。」皆さんメモを取りながら熱心に聞き入っています。



次に実習に入ります。まずは、ヘラなどを使って植物の土を、根を傷つけないよう注意しながら綺麗に落とし、さらにバケツの水で洗い完全に土を落とします。



ハイドロボール（粘土を高温で発泡させたもの）を鉢に2段程入れ、その上に根腐り防止剤をひとつまみ。植物を鉢に戻し、同じくハイドロボールを加えて植え込みます。鉢底から5分の1程度の水を与えて完成です。



下は伊藤先生が講師をつとめる「緑の会」の会員の方々が、環境情報活動センターに寄付して下さったハイドロカルチャーの寄せ植えです。半年たった今でも、こんなに生き生きとした緑をたたえ、私たちが癒してくれています。



カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年11月10日

「ネイチャークラフト第2弾 どんぐりのミニ動物を作ろう」

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年11月14日

「ネイチャークラフト第2弾 どんぐりのミニ動物を作ろう」

●日時：2006年10月21日(土) 13:00~15:00

●参加費：200円(保険料込)

10月21日(土)、環境情報活動センターにて「ネイチャークラフト第2弾 どんぐりのミニ動物を作ろう」が開催されました。講師はどんぐり博士こと亀田勇二先生です。



まずは先生が作った「ライオン」と「シカ」をまねて作ってみます。

どんぐりにドリルで穴を開けて足やひげを差し込み、さらにグルーガンで接着するという、細かい作業の連続です。

4本足のバランス、しっぽ(細い竹)の曲がり具合、角の大きさ、耳の大きさ等、こだわる部分はたくさんあります。

同じ動物でも、表情が違う動物たちができあがりました。

コツをつかんだ生徒さんたちは、いろんな形の「どんぐり」や「小枝」を使って新しい動物作りを始めました。羊、熊、ウサギ、ネズミなどなど。





いつの間にか立派な動物たちのオアシスができました。



みなさんなら何の動物を作ります？

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年11月14日

松ぼっくりでクリスマスツリーを作ろう

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月16日

12月9日、環境情報活動センターにて、環境講座「松ぼっくりでクリスマスリースを作ろう」が行なわれました。



松ぼっくりに木の台座をつけたものに、ビーズなどでキレイに飾り付けて、自分だけのすてきなクリスマスツリーを作ります。小さなビーズをつける時は手伝ってもらいながら、みんな夢中で飾り付けていました。

松ぼっくりというと、手のひらサイズのものを想像しますが、今回使用した松ぼっくりは、北米、ヒマラヤ原産のビックサイズ！手のひらどころか指先から手首くらいの大きさです。画像でも大きさは感じてもらえるかな？公園などに松ぼっくりが落ちていたら、大きさを比べたり、図鑑で調べたりしてみよう！



それぞれ家から持ってきた飾りも加えて、より個性的なツリーを作ることができました。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月16日

クリスマスリースを作ろう

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月16日

12月16日、環境情報活動センターにて、環境講座「クリスマスリースを作ろう」が行なわれました。



今回は以下の写真のような珍しい種類の松ぼっくりを使って飾り付けました。



カラマツ（唐松・落葉松）

一般的な松ぼっくりよりも少し小さい松ぼっくりです。カラマツは、針葉樹の中では珍しい秋に紅葉する落葉針葉樹です。



ヒマラヤ杉

バラのような形をしているので、公園に木があっても拾われてしまうので、なかなか見つけられません。見つけられたらラッキーかも!?



もみじ葉フウ

トゲトゲのウニのような形をした松ぼっくりです。これが木から落ちると、はじけて地面に蒔かれ、木に成長して行くのだそうです。

このように、松ぼっくりと一言にいても様々な形があります。図鑑などで調べてみましょう！



松ぼっくりの他に、講師の亀田先生が剪定して持ってきてくださった「伽羅木（きやらぼく）」も飾り付けに使用しました。捨ててしまう所も、飾り付けに少し添えればステキなアクセントになります。



さまざまなアイデアが盛り込まれて個性的なリースが出来上がりました。

カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年12月16日

2007年どんぐりカレンダーを作ろう！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月22日

2007年11月23日（祝）と25日（土）の2回、環境情報活動センターにて、環境講座「2007年どんぐりカレンダーを作ろう！」が行なわれました。毎年大人気の講座で、両日あわせて60名以上が参加しました。

落選となってしまった方、本当に申し訳ございませんでした。この場を借りてお詫びいたします。



作る前にまずはどんぐりの種類についてお勉強します。

どんぐりカレンダーに使われているどんぐりの木の名前、みんな言えるかな？



材料を確認したら、いよいよ制作開始！

難しい所は、おとなの方に手伝ってもらいながら作っていきます。



仕上げに、カレンダーを好きな色に塗って自分流にアレンジ。

ペンなどもテーブル間で交換して仲よく作業することが出来ました。

2日目には、家から松ぼっくりを持ってきた方もおられ、それぞれステキなカレン

ダーを作ることが出来ました。





カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年12月22日

さき織で作る冬小物

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年02月03日

1月27日、環境情報活動センターにて、環境講座「さき織で作る冬小物」が行われました。

今回の講師は、アートディレクターの竹中信子先生です。



さき織とは、江戸時代の中期、厳しい北国の生活の知恵から生まれた技法で、着古した着物や古い布を1センチ程度に切りさいて、はた織りする技法です。和風パッチワークといった感じでしょうか。

今回の講座は、参加のお申し込みを100通以上いただいた大人気の講座でした。抽選の結果、残念ながら参加できなかった方々にも、さき織を楽しんでいただこうと、今回は作り方付きでレポートいたします！

布とダンボールと毛糸（なるべく丈夫で伸びにくいもの）があれば、お子様でも簡単に作れますので、是非挑戦してみてください！



下準備として、まず織り機をダンボールで作ります。

ダンボールを適当な大きさに折り、テープなどでとめます。

（ある程度厚みのある方が織りやすいので。）



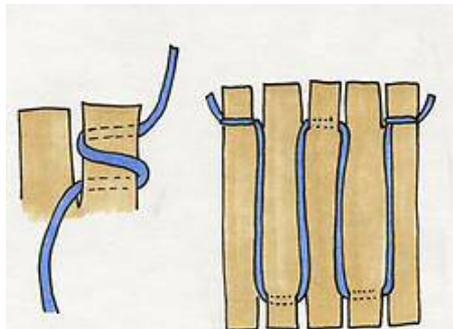
両端にカッターなどで約1センチ幅の切れ込みを入れます。
力のいる作業ですので、お子様など、刃物の扱いには充分注意をしてください。
これで織り機は完成です。（環境講座ではこの状態の織り機が配られました）



布は、大体1センチ幅に裂いておきます。なるべく長めに裂くことがポイントです。
端がケバケバしてしまっても、織りこむと独特の風合いがでて楽しいですよ。
それでは早速作ってみましょう！

◆ **ダンボールで作った織り機に毛糸を通します。**

下図のようにジグザグに糸を張っていきます。



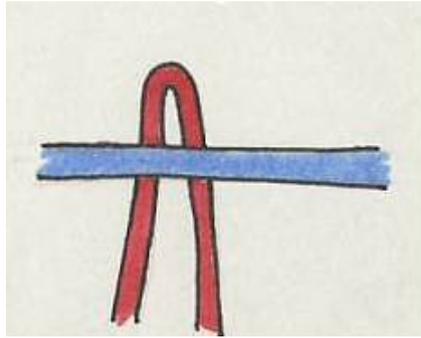
糸がズレてしまわないように、最初と最後だけ一度巻いておきます。
ダンボールがモロい場合は、ダンボールの切れ込み部分にテープを貼ってとめておく
と安心です。



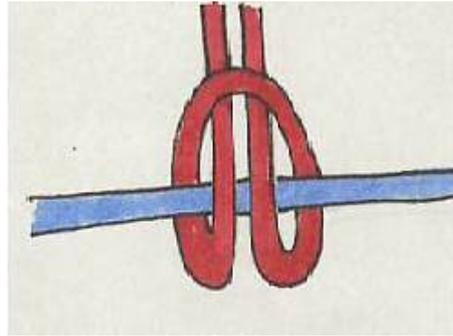
◆ ◆で張った縦糸の幅をキープするために、上下の部分に2列ずつのチェーン編みを施します。

横幅の6～7倍の毛糸をもう2本用意してください。

この行程のみダンボールを横にして扱ってください。

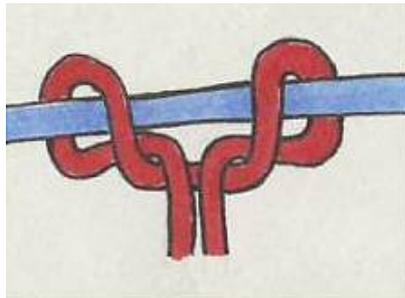


→



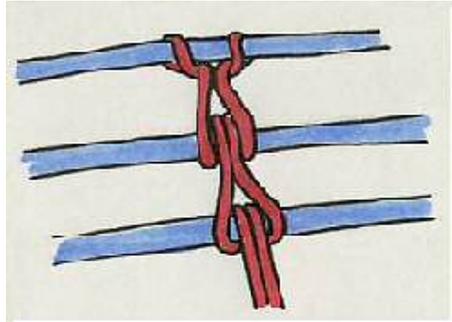
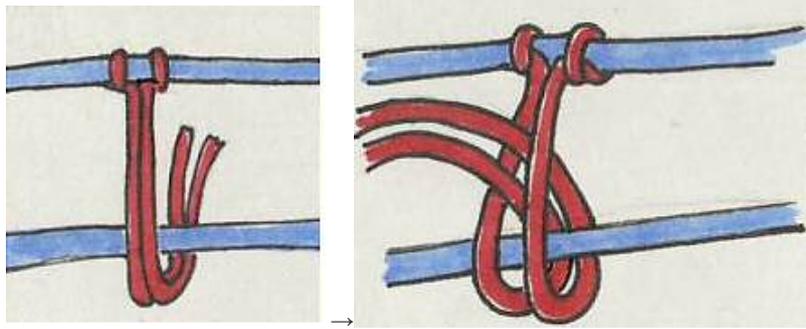
まず、チェーン編みをする横糸（図では赤い糸）を半分に曲げ、縦糸（青い糸）の下にくぐらせます。

くぐらせて輪になった部分に、輪になっていない方を通します。（上図参照）

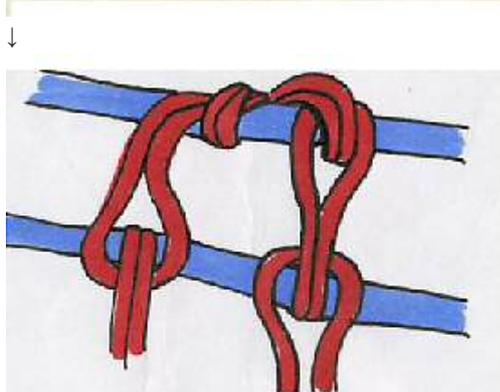
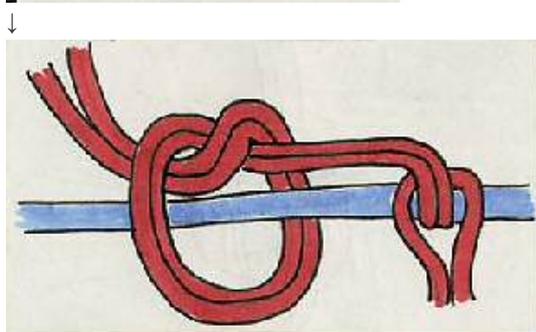
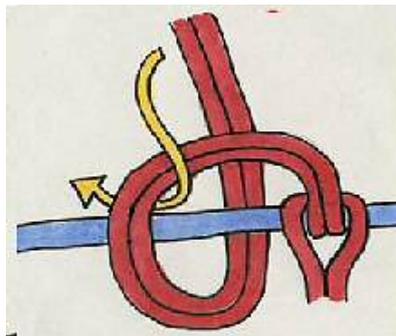


下に引っ張ると↑のようになります。（図は、ゆったりと編んでありますが、実際はきっちりと編んでください。）

2段目以降も同じように輪になった部分に糸を通して編んでいきます。



下の段まで編み終え、折り返すときは、2本まとめて縛ってから、同じように編みます。





◆ いよいよ、さき布を織っていきます。縦糸に布を上下にジグザグ通していきます。

布は特に縛る必要はありません。布を付け足す場合は、付け足したい部分に少し被せて織っていけばオーケー。

ゆるく織っても独特の風合いが出ますが、きっちりと織りたい場合は、フォークで詰めると密度の高いものを作ることができます。



↑また、間に定規などはさむと、織りやすくなります。

◆ 編み終わったら、そっとダンボールから外して出来上がりです。



柄や絵を描いてタペストリーにしたり、コースターなどの敷物にしたり、さき織を縫いあわせて小物をつくったりなど、アイデア次第で、色んなものに変身します。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年02月03日

ボートから眺める運河の環境と渡り鳥観察レポート

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月24日

2月24日土曜日、早春の風が吹く勝島運河にて、環境学習講座「ボートから眺める運河の環境と渡り鳥観察」が行われました。およそ30名の受講生と、運営管理にあたってくださる勝島運河倶楽部の方々、大田区海洋少年団の方々、取材の方々など総勢60名ほどが、この日オープンした勝島運河浮き桟橋付近に集いました。

最初に、水辺の危険から身を守るために必要なロープワークを学びます。講師は、大田区海洋少年団の高橋寛さんです。

練習用のロープを一本ずつ渡された受講生の皆さん。まずは、もやい結びに挑戦。講師の手ほどきを受け、悪戦苦闘しながらも、最後には結べる速さを競うほどの上達ぶりでした。

応用編で、水難救助されるとき結び方も学びます。水から引き上げる際には、自分の体重の3倍の力が自分に課せられるそうです。だから、助けのロープが上から降りてきたら、手首に絡めるのではなく、腰に巻くのだとか。自分の命を守る方法なので、皆さん真剣です。



次は、ボート体験です。講師は勝島運河倶楽部 副代表の嶋村泰輝さん。ライフジャケットを装着し、パドルの練習をしたら、3班に別れ、10人乗りのEボートに乗り込みます。



掛け声を合わせ、パドルを回し、進むのですが、強風のためもあってなかなか思う方向へ行きません。それでも、運河を過ぎ、立会川を上る頃には息も合って、歓声も聞かれるようになりました。ボートはそのまま、なみだ橋をくぐり第一京浜を越えます。



気分はさながらジャングルクルーズ。風に煽られるのを、むしろ楽しみながらの探

検です。



ボートを待っている他の班は、野鳥探索へ。渡された解説資料「水辺の野鳥たち」を手に、水鳥たちの名前、特徴などを覚えていきます。「カモが大嫌いだったんだけど、餌をあげてずっと見ていたら、すごく好きになった」などの声も聞かれました。



今回、講座の管理運営にあたってくださったのは勝島運河倶楽部の皆さん。お父さん世代が、まるで子どものように生き生きと、笑顔で心から楽しんでいる様子が印象的でした。

オヤジ達がこんな笑顔で子どもに接していたら、「日本も捨てたものじゃないな」なんて考える子どもが増える気がしました。地域に愛着を感じ、自然環境を大切にしていこうという子どもは、こうした地域のオヤジ達によってつくられていくのかもしれない。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月24日